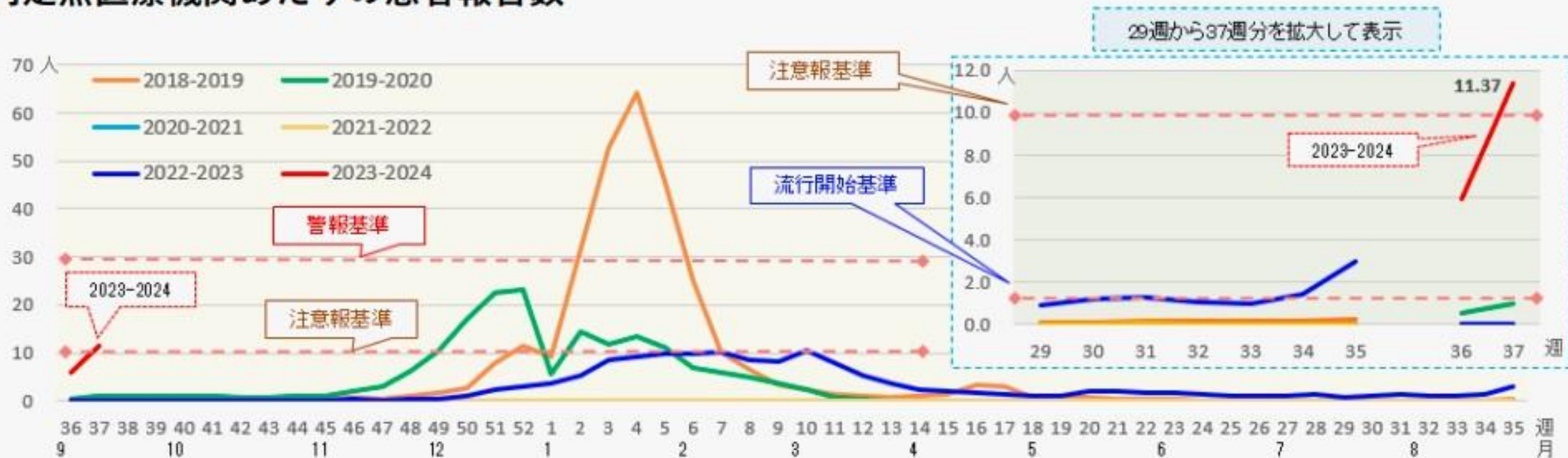


都内のインフルエンザ 発生状況

2023年9月28日
感染症予防検討委員会報告より抜粋
委員 萩原温久

都内のインフルエンザの発生状況について

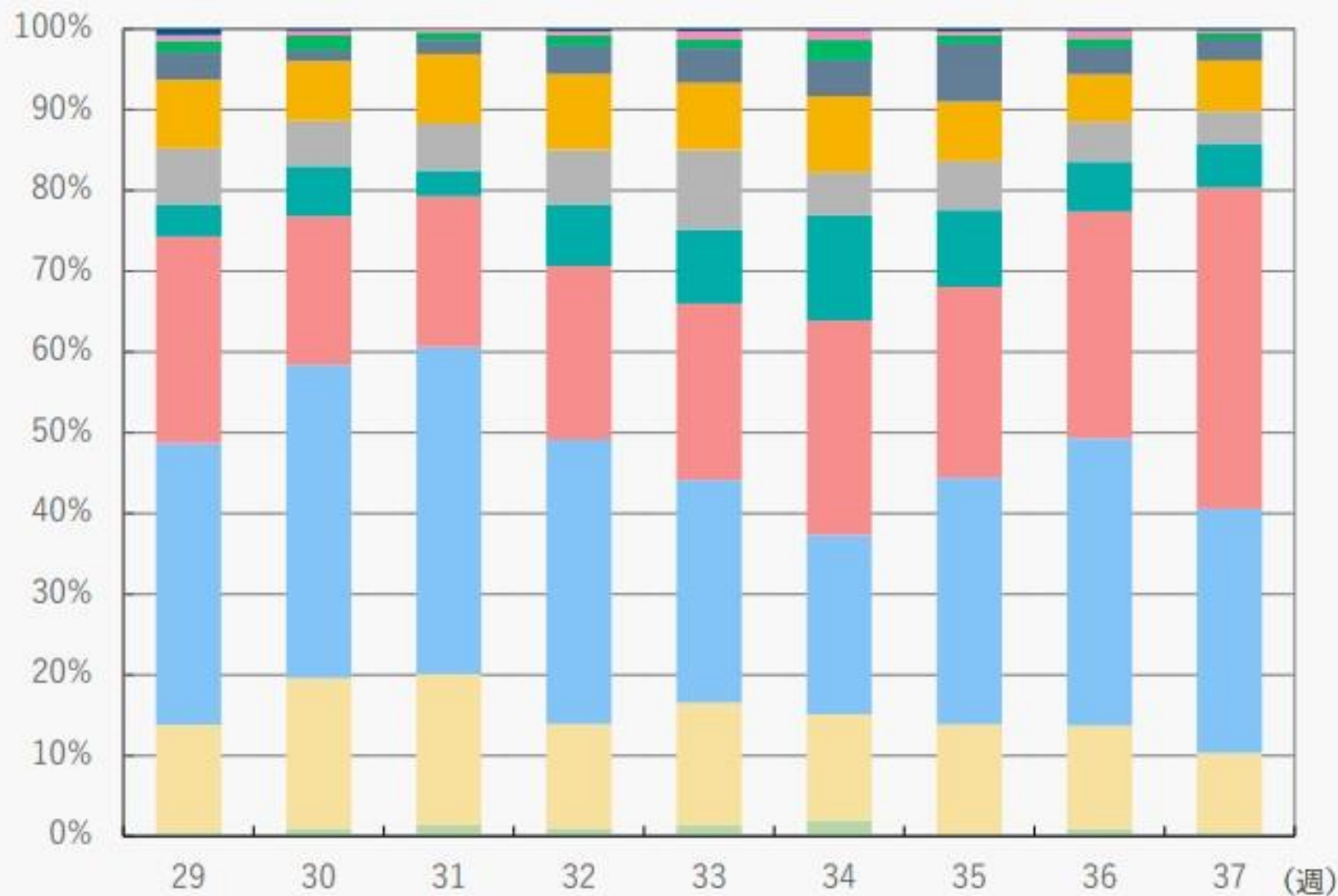
都内定点医療機関あたりの患者報告数



※ 2023/2024年シーズンは第36週（令和5年9月4日から）開始

- ・ **第36週（9/4～9/10）**： **5.95人/定点** ⇒ 流行の目安となる1.0人を超え、9月14日付けで報道発表を実施
シーズン当初から流行の目安を上回る状況となったのは、2009年（3.66人/定点）以来
報告数としては、感染症法施行（1999年）以来、最も高い数値
- ・ **第37週（9/11～9/17）**： **11.37人/定点** ⇒ 流行注意報基準である10.0人を超え、9月21日付けで報道発表を実施
第37週での流行注意報基準超えは、感染症法施行以来、最速（2番目は、2009年第38週（10.09人/定点））

【年齢階層別】 都内定点医療機関当たり患者報告数



- ・ 患者報告数を年齢階層別に見ると、いずれの週も0歳から10代までの患者報告数が全体の約70~80%を占めている。
- ・ 上記は、小児科定点が占める割合が大きいことも影響しているが、保育所や小学校からの集団事例の報告数が増えていることも一因と考えられる。

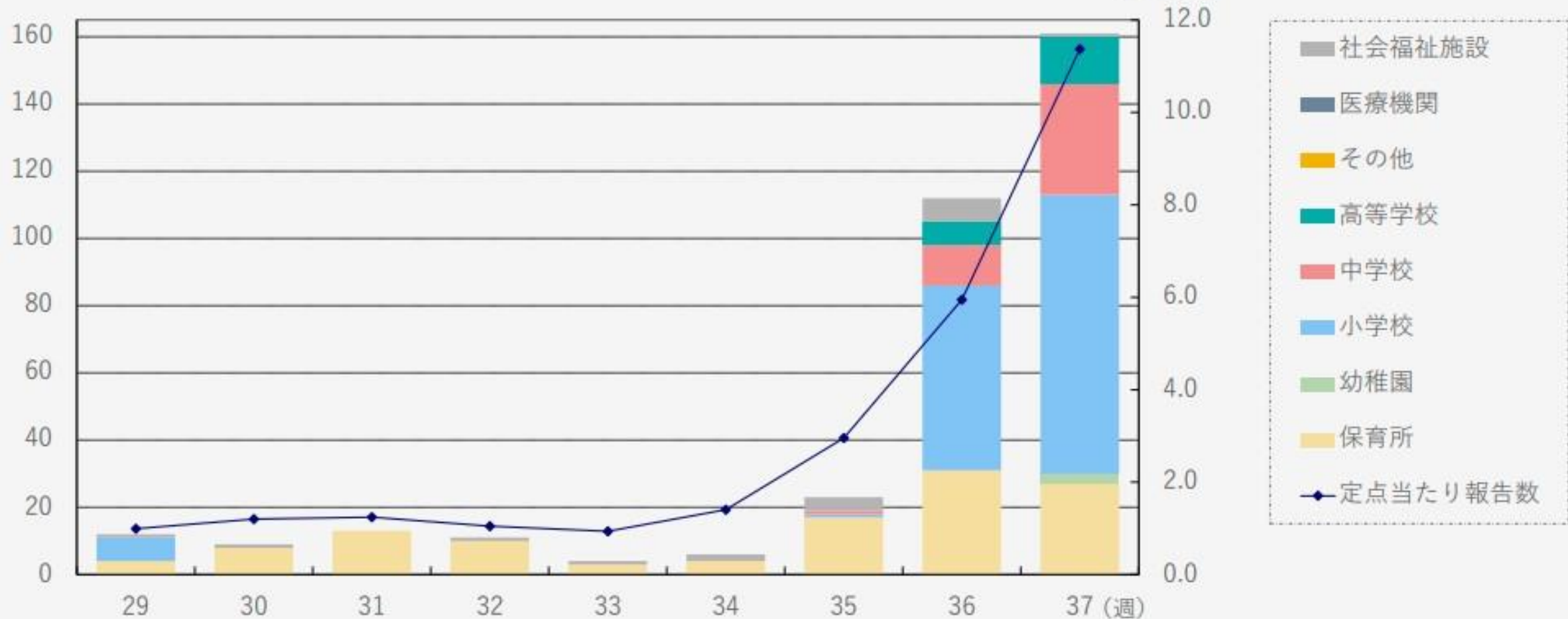
施設別集団事例報告数は次頁参照

0歳 1~4歳 5~9歳 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80歳以上

施設別集団事例報告数

(施設数)

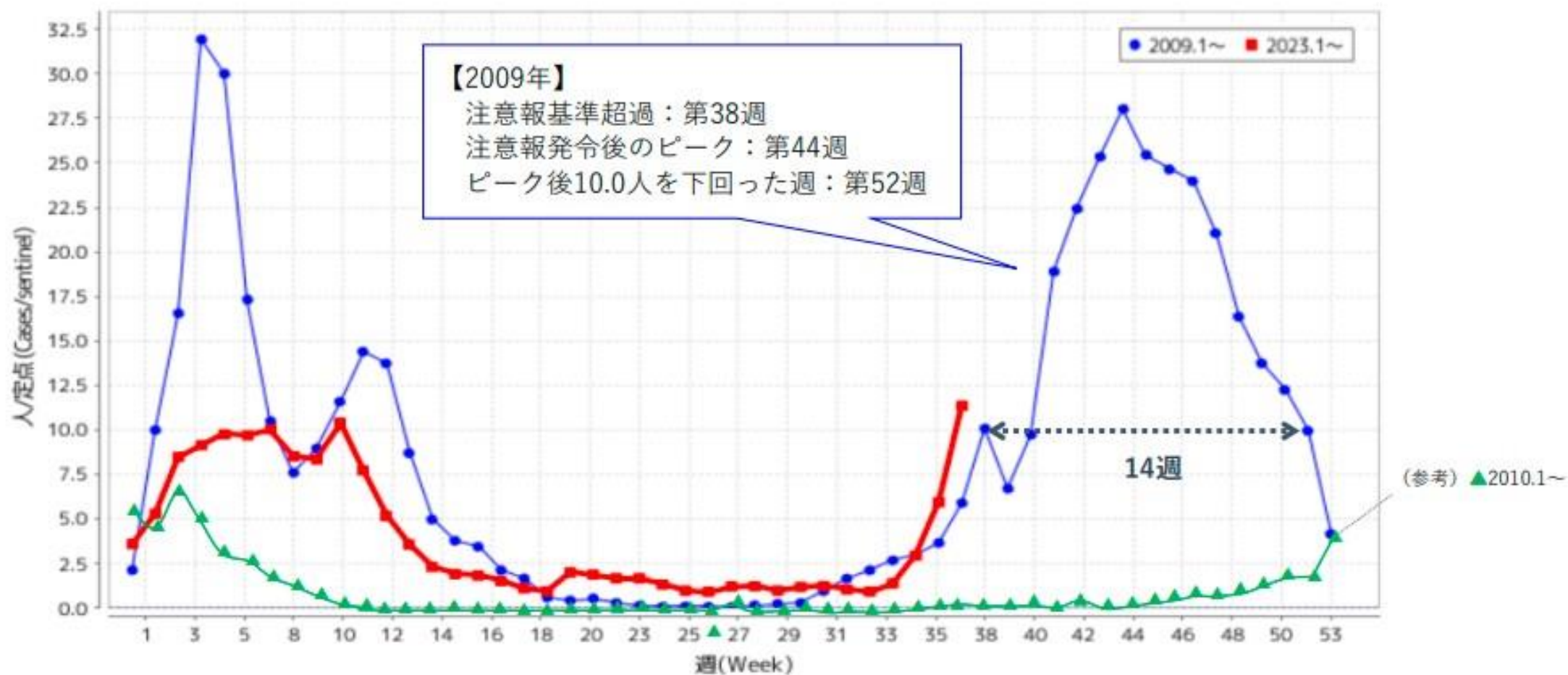
(人/定点)



保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	医療機関	社会福祉施設	その他	合計
117	3	146	46	21	0	18	0	351

2009年*との比較

* 前回、シーズン当初から流行の目安を上回る状況となった年



- ・ 2009年は、注意報基準超過後のピーク後、10.0人/定点を下回るまでに14週を要している。
⇒ 現時点で、2023年は2009年と同様の傾向を示しており、流行が長期間継続する可能性がある。
- ・ また、今回の流行終息後、再度、通常の流行シーズン（12月～3月）に患者数が増加することが懸念される。